

短期派遣 EUROPA 派遣報告書

氏名：新谷 崇（あらやたかし）

博士後期課程（2006年入学）

指導教官：工藤光一先生

専攻分野：イタリア近現代史

派遣の概要

- （1）派遣先：ピサ高等師範学校（イタリア）
- （2）派遣期間：2011年12月1日から2012年7月31日まで
- （3）受け入れ教員：ダニエーレ・メノッツィ教授
- （4）研究テーマ：ファシズム体制下での教区司祭の動員について
- （5）派遣目的：史料収集と博士論文の執筆

派遣中の活動概要

（1）研究内容

1922年に誕生したファシズム政権にとって、大衆の合意獲得は、権力確立への優先課題であった。その際、イタリア王国の首都であるローマ内部に中心があり、イタリア国民の大多数が信仰するカトリックとの関係は繊細かつ重要な問題であった。1870年のローマ併合に由来するイタリア王国とバチカンの対立を解消し、イタリア社会の末端まで影響力を持つカトリック聖職者たちを取り込めれば、ファシズム政権の基盤確立は大きく進むはずであった。

バチカンとイタリア王国の衝突は、1929年にコンコルダートが締結され、一応の政治的解決をみる。それによってカトリックが公的空間に復帰する。とはいえ、すぐにカトリック聖職者がファシズム政権に協力したわけではないし、体制側も簡単に聖職者の動員に成功したわけではない。大衆を掌握するにはカトリック司祭の協力が必要だったが、イタリア人の日常生活に浸透するカトリック信徒団体（*Azione Cattolica*）は、組合や余暇事業、ボーイスカウトなどファシズム諸組織のライバルでもあったからである。

ファシズム政権に協力する聖職者は数多く存在した。なかでも、ひと際、組織的かつ広範な地域で聖職者を動員した事業があった。それが、小麦増産を目的とする政権のプロパガンダ「小麦戦争」への聖職者の参加で、カトリック系のファシスト知識人 G・デロッシによって試みられた。「小麦戦争」に参加した教区司祭は、農民に体制が望む科学的農法を教え、小麦の収穫量を競った。聖職者の動員は、イタリア王国の行政が浸透しきれなかった辺鄙な土地までも、カトリック組織を通じてファシズム化する回路を作った。そして、聖職者がファシズムの農業政策に毎年参加するという現実が、バチカンとファシズム政権を衝突がありながらも結びつけ続けさせたのではないかと、本研究ではそのような仮説を抱

いている。

派遣者は、以上のような聖職者の「小麦戦争」への動員がイタリア社会に与えた影響と政教関係上の史的意味に関心をもっている。そして、本派遣の機会を活かし、研究に必要な史料を収集、分析し、博士論文の執筆を進めた。

(2) 当初の計画

博士論文完成のため、フィレンツェやローマなどで史料を収集し、ピサでの受け入れ教員の指導のもと、四章構成で構想している博士論文のうち第二章まで完成する。

(3) 現地での活動と成果

【史料収集】

- ・フィレンツェ国立図書館：週刊誌 *Italia e Fede*、月刊誌 *Rassegna Nazionale* などを閲覧し必要箇所を複写。
- ・ピサ大司教区文書館：G・デロッシの洗礼履歴を調査。未発見。
- ・アスティ県レジスタンス史研究所：*Italia e Fede* の1942、43年分を入手。
- ・ジェノバ大司教区文書館：カトリック政党であるイタリア人民党とリグーリア地方のカトリック日刊紙 *Il Cittadino* の関係を知るため、1920年代のジェノバ大司教のファイル調べた。史料は未発見。
- ・ジェノバ大司教区神学校：*Il Cittadino* の入手。
- ・リソルジメント博物館（ジェノバ）：*Il Cittadino* の入手。
- ・ローマ国立文書館：検事局への出版申請書類。デロッシが *Italia e Fede* と *Rassegna Nazionale* を出版する際の書類から、出版意図を把握できた。デロッシの戸籍謄本や身上書なども申請書類のファイルに含まれていたため、研究に役立った。
- ・イタリア中央文書館（ローマ）：ムッソリーニ特別秘書文書、内務省政治警察、農業森林省、閣議文書を調べた。デロッシとファシズム政権の関係、聖職者を農業プロパガンダに動員した際の資金の流れ、などを記した文書を入手できた。
- ・バチカン秘蔵文書館：

国務省関係文書では、出版人ファイルと司教区ファイルを調査した。司教区ファイルでは、ウーディネ司教区のものが興味深かった。そこにはバチカンの態度を批判するベルギーの信徒の手紙が収められていた。ファシズム政権がカトリックを政治利用し国家宗教導入に傾倒していて、それをバチカンが黙認していると、厳しい口調で書かれていた。本研究で扱っている聖職者の動員が同時代の他国のカトリックにどのように見られていたか知ることができた。

国際関係文書では、1922年から1938年の対イタリア文書を調査した。1938年には多数の教区司祭がファシズム政権主催の表彰式に参加した。ムッソリーニから直接表彰され、ローマ市内を行進し、教皇への謁見も許された。一連の行動に関する高位聖職者たちの書

類を入手できた。

【論文執筆】

博士論文は当初四章を構成していたが、時間不足から三章構成に変更した。派遣期間中に第一章を書き終えた。第一章の一部分をもとに、学術誌に投稿するための論文を執筆した。今秋の投稿を目指して現地指導教官の指導を受けている。

投稿論文仮題: *Cattolicesimo, razzismo e fascismo. L'attività propagandistica di Giulio de' Rossi dell'Arno (1938-1943)*.

今後の計画

(1) 次回の派遣期間：2012年9月15日から2013年2月14日まで

(2) 派遣地：ピサ高等師範学校

(3) 派遣目的：

博士論文の第二、三章の完成。

ウーディネ司教区文書館での史料調査（日間の予定）。

定期的にフィレンツェ国立図書館に通い雑誌史料を閲覧する。

(4) 展望と目標：2013年度中に学位を取得する。